

第5回 今治市総合都市交通体系調査検討委員会  
- 委員会資料 -

**総 合 交 通 体 系 編**

平成 21年 11月 30日

# 目 次

<b>1 . 前回検討委員会での主な指摘事項と対応方針</b> .....	1
<b>2 . 将来交通量配分(既定道路網の評価)</b> .....	2
<b>3 . 都市計画道路の見直し</b> .....	8
3.1 見直し方針 .....	8
( 1 ) 見直し目的 .....	8
( 2 ) 見直しフロー .....	8
( 3 ) 評価指標 .....	11
3.2 見直し結果 .....	13
( 1 ) 評価対象路線・区間 .....	13
( 2 ) 評価結果一覧 .....	15
( 3 ) 廃止・変更候補区間 .....	26
<b>4 . 総合都市交通体系の方針</b> .....	39
4.1 交通体系の基本方針 .....	39
4.2 道路網計画(案)の立案・評価 .....	43
( 1 ) 道路網計画(案)の立案 .....	43
( 2 ) 道路網計画(案)の評価 .....	45
4.3 幹線道路の整備方策 .....	57

## 1. 前回検討委員会での主な指摘事項と対応方針

前回(8.31(月))に実施した第4回検討委員会での主な指摘事項とそれへの対応方針を下表に示す。

表 1.1.1 前回検討委員会での主な指摘事項と対応方針

主な指摘事項	今後の対応方針
高速広域交通の課題の「広域交流の促進」に関する評価指標については、松山市との連絡強化の視点も必要ではないか。	・「今治市 松山市」の所要時間については、今治市の道路整備だけでは十分に効果が現れないことから、参考値として整理する。
幹線道路軸形成の方向図における交流軸の分類「広域・都市間・地域間」と交通課題の分類「高速広域交通・地域道路網」の関係が分かりづらい。 (課題分類の高速という言葉を取れば、広域交流軸と都市間交流軸と両方の視点が入って、うまく整理できるのではないか)	・交通課題の分類のうち「高速広域交通」を「広域交通」に名称変更する。 ただし、都市間の連携(都市間交流軸)については、「広域交通の課題」と「地域道路網の課題」の両方の視点があることから、交流軸の分類については、幹線道路軸形成の方向図のとおり、3つの軸を提案する。
「長期未着手都市計画道路への対応」は現況から出てくる交通課題ではないと考えられる。	・都市計画決定後30年以上に渡る長期の未着手路線が多いことから、現況から見た課題の1つとして「長期未着手都市計画道路への対応」を位置づけたい。
地域道路網の課題の「安心・安全な暮らしを支える道路網の形成」の観点からは、交通事故の発生件数のみならず、バリアフリー化率等の評価指標も考慮する必要があるのではないか。 バリアフリー化率ではエリアが限定されるので、歩道の設置延長でもよいのではないか。 自転車道の設置に関する評価指標を設定してはどうか。	・今回設定する評価指標については、幹線道路ネットワークの整備水準に関する評価のための指標であることから、自転車について検討を行う「自転車走行環境改善編」において、歩道設置延長、広幅員歩道設置延長を追加する。
地域道路網の課題の「安心・安全な暮らしを支える道路網の形成」における評価指標に「交通事故発生件数」があるが、件数だけでなく、どのような事故の発生を削減するかを考えていく必要がある。 高齢者の横断中の事故、あるいは自転車の通行時の事故に視点を当てればよいのではないか。	・評価指標としては事故の発生総件数とするが、現状の事故発生状況について分析を行う。
地域道路網の課題の「安心・安全な暮らしを支える道路網の形成」に対応した評価指標としては、医療施設への所要時間が考えられる。	・第3次医療施設への所要時間を評価指標として追加する。
地域道路網の課題の「地域の活性化を支援する道路網の形成」における評価指標に「今治市中心部の平均混雑度」があるが、「混雑解消に向けた道路網の形成」との関係がわかりづらい。	・地域の活性化の観点からは、中心部の交通の円滑化が重要であることから、提案どおり「今治市中心部の平均混雑度」を評価指標として設定したい。
地域道路網の課題の「地球環境問題に対応した道路網の形成」における評価指標に「CO2排出量」があるが、これについては道路網の整備のみならず、CO2を排出しない交通手段、特にバスへの転換が重要と考えられる。 このような点から、バスのサービス水準に関する評価指標を設定してはどうか。 バスサービスについては、事業者の意向もあり、扱いが難しい。ただし、バス交通に関する将来課題については、定性的に整理してもらいたい。	・バス交通を含む公共交通に関しては、現況の課題は整理するものの、基本的には今回の調査対象外としている。 昨年度調査においても、公共交通網の課題として、鉄道・バスに関する課題を整理している。道路整備による交通の円滑化は、バス交通の定時性向上等走行環境改善につながることから、その点も踏まえて今年度のとりまとめを行いたい。
地域道路網の課題の「地球環境問題に対応した道路網の形成」における評価指標の「CO2排出量」については、どのような手法で削減しようとしているのか。 時間短縮によるCO2排出量の削減では不十分で、それ以外の方法も考える必要があるのではないか。	・本調査は、今治市の望ましい交通体系に関して、都市計画道路を中心に検討していることから、時間短縮、スムーズな走行の実現によるCO2の排出量削減を計画目標としたい。 ・CO2削減のその他の対策については、本調査の対象外にしたい。
中心部居住については、どのような対策が取られているのか。	・現在は、中心部における民間住宅の建設促進を図るため、集合住宅の建設に対する補助を行っている。他の課も含めて総合的な対策の実施により、中心部の人口減少に歯止めをかけたいと考えている。
自転車ヒアリング調査に関しては、同様なアンケートを交通安全推進会議において、今治市内の高校8校を対象に毎年行っているところである。そのため、同じ内容にならないよう注意するとともに、これとの整合について留意してもらいたい。	・十分把握してヒアリング調査を進める。
しまなみ海道を利用した自転車での観光も多い。これについても検討が必要ではないか。	・本調査では、通勤・通学による自転車利用を調査対象とし、観光面での自転車利用については、調査対象外としたい。
自転車道に関する検討については、現状の問題への対応だけでなく、どこどこを結ぶかと言ったネットワークの観点からの検討が必要と考えられる。	・ご指摘を踏まえて検討を行いたい。